

## 5 有収率向上対策

水資源の有効活用及び経費の削減を目的に、有収率向上対策として次の取り組みを行っている。

- (1) 漏水調査による早期発見と即時修理
- (2) 老朽管の布設替
- (3) 配水ブロック、減圧弁による適正水圧の管理
- (4) 配水管理システムのデータ解析による効率的な漏水調査

有収率の推移

(単位: %)

| 年度 | 22   | 23   | 24   | 25   | 26   | 27   | 28   | 29   | 30   | R1   | R2   |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 計画 | 88.3 | 88.2 | 88.4 | 88.6 | 90.2 | 90.5 | 90.8 | 91.1 | 91.4 | 91.7 | 92.0 |
| 実績 | 86.6 | 87.6 | 88.0 | 89.2 | 90.4 | 90.0 | 90.4 | 90.6 | 90.2 | 90.2 | —    |

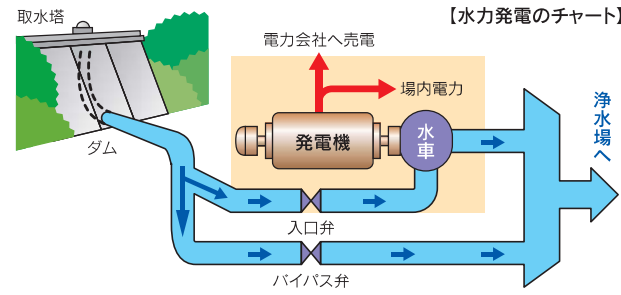
## 6 上水道資源などの有効活用

### 1 未利用エネルギーの有効利用

水道施設にて発生するクリーンな水力エネルギー有効利用を図るため、ダム取水の落差等を利用した水力発電所を稼働している。

まず測及び油木発電所、丸山小水力発電設備の発生電力は、余剰電力を電力会社に売電し、頓田発電所では本城浄水場内、穴生発電所では穴生浄水場内ですべて利用されている。

また、太陽光エネルギーを利用した太陽光発電所を建設し、クリーンエネルギーの有効利用も図っている。



#### 水力発電所

| 項目              | まず測発電所 | 油木発電所  | 頓田発電所   | 穴生発電所   | 丸山小水力発電設備 |
|-----------------|--------|--------|---------|---------|-----------|
| 最大出力[kW]        | 520    | 780    | 68      | 340     | 9         |
| 年間可能発生電力量[万kWh] | 214    | 335    | 36      | 132     | 6         |
| 稼働日             | 平成6年4月 | 平成8年4月 | 平成10年4月 | 平成19年4月 | 平成26年8月   |

#### 太陽光発電所

| 項目              | 藍島太陽光発電設備 | 紫川太陽光発電設備 | 大蔵・小島・日峰・二島太陽光発電設備 | 笹尾・堀越太陽光発電設備 | 丸山・永犬丸太陽光発電設備 | 血山・小野野太陽光発電設備 | 山ノ神第2太陽光発電設備 | 畑第2太陽光発電設備 |
|-----------------|-----------|-----------|--------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|------------|
| 最大出力[kW]        | 12.7      | 150       | 9.5                | 9.7          | 9.5           | 20.3          | 21           | 31.5       |
| 年間可能発生電力量[万kWh] | 1.4       | 16.8      | 0.9                | 0.9          | 0.9           | 2.0           | 2.0          | 2.9        |
| 稼働日             | 平成10年10月  | 平成11年4月   | 平成22年2月            | 平成23年2月      | 平成24年3月       | 平成25年10月      | 平成26年9月      | 平成26年9月    |

太陽光で発電した電力は自家消費し、余剰電力は電力会社に売電している。



藍島太陽光発電



紫川太陽光発電

### 2 浄水汚泥の活用

浄水処理過程で発生する浄水汚泥は、セメント原料、グラウンド用土、育苗土として有効活用している。



セメント原料



グラウンド用土



育苗土

## 7 財政状況

### 1 財政の概況

令和元年度は、平成28年4月に策定した「上下水道事業中期経営計画(H28～R2)」に基づき、着実に事業を実施することで、インフラの維持・強化や新たな広域連携の推進に取り組むと同時に、健全かつ安定的な事業運営の構築にも努めた。

事業面では、「災害等の危機管理対策」、「経年施設の長寿命化・更新」、「安全・安心でおいしい水の供給」、「環境負荷

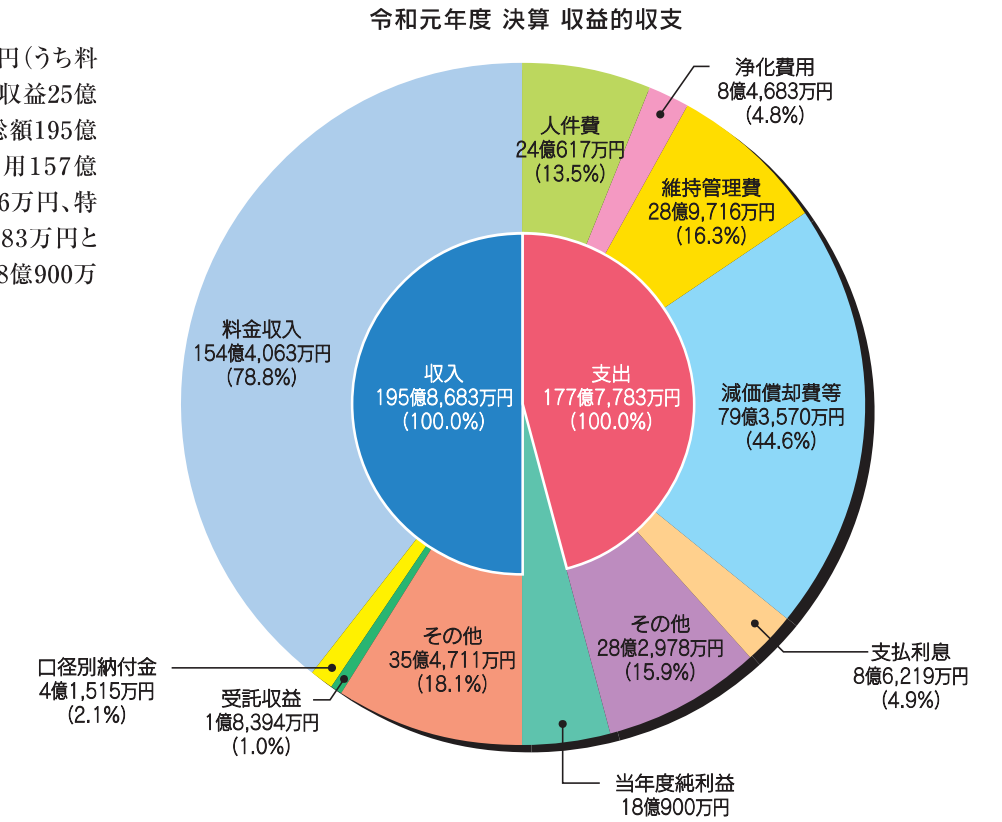
の低減」、「国内外に貢献する上下水道」について特に重点的に取り組んだ。

財政面では、単年度資金収支は、1億3,960万円のマイナスとなったが、累積では建設改良基金積立を含め78億8,744万円の資金剰余を確保している。

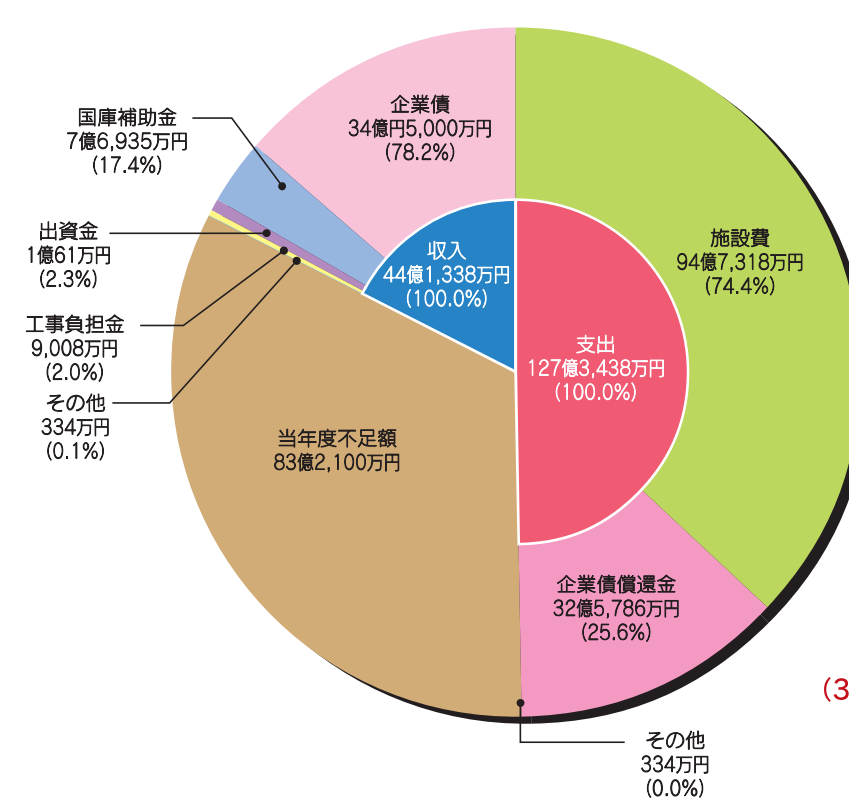
## 2 令和元年度決算(税込)

### (1) 収益的収支

収入は営業収益170億4,398万円(うち料金収入154億4,063万円)、営業外収益25億3,957万円、特別利益328万円で総額195億8,683万円となり、支出は営業費用157億1,003万円、営業外費用20億6,466万円、特別損失314万円で総額177億7,783万円となった。この結果、令和元年度は18億900万円の利益が生じた。



### 令和元年度 決算 資本的収支



### (2) 資本的収支

収入は企業債34億5,000万円、国庫補助金7億6,935万円、出資金1億61万円等で収入総額44億1,338万円となり、支出は施設費94億7,318万円、企業債償還金32億5,786万円等で総額127億3,438万円となった。この結果、収支差引では83億2,100万円の不足となった。

### (3) 資金収支

資本的収支による資金不足額83億2,100万円を損益勘定留保資金等で補った結果、単年度資金収支は1億3,960万円のマイナスとなったが、累積では建設改良基金積立を含め78億8,744万円の資金剰余を確保している。